

## ☆ 聴覚障がいのある子どもの教育的ニーズの整理① ～障がいの状態等の把握～

聴覚障がいのある子どもの教育的ニーズを整理する観点『①障がいの状態等の把握』について、「障害のある子供の教育支援の手引」から、一部を抜粋してまとめました。詳細については、「手引」第3編をご参照ください。



### ア 医学的側面からの把握

#### 障がいに関する基礎的な情報の把握

把握する事項	留意点等
<b>a 既往・生育歴</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出生週数      ・ 出生時体重      ・ 出生時の状態      ・ 保育器の使用</li> <li>・ 障がいの発見及び確定診断の時期      ・ 治療歴及び予後</li> </ul>
<b>b 聴覚障がいの状態や聞こえの発達等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診断名 (感音難聴・混合性難聴・伝音難聴)</li> <li>・ 聴覚疾患発病の時期・失聴時期</li> <li>・ 聴覚障がいに合併しうる他の障がい (視覚障がい・知的障がい・運動発達障がい等)</li> <li>・ 合併疾患名</li> <li>・ 両耳の聴力レベル・補聴器・人工内耳装用下での聴取能 (装用下聴力)</li> <li>・ 聞こえの状態 (標準聴力検査、遊戯聴力検査、語音聴力検査など)</li> <li>・ 聞こえの発達</li> </ul>
<b>c 現在使用中の補装具等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補聴器や人工内耳の使用状況 (補聴器・人工内耳なし/両耳・片耳)</li> <li>・ 補聴援助機器の使用状況 (補聴援助機器の種類/使用場面)</li> </ul>

#### 【観察について】

聴覚障がいのある子供は、周囲の物や出来事など視覚を活用して把握したり、相手の表情や動作を手掛かりに話を理解したりしていることが多いため、遊具を用いた遊びや物のやり取りができるプレイルームのような所で観察することが望ましい。この場合、遊びの中で音や音声に対する反応や言葉の理解と表出、人との関わりなどの側面を観察する必要がある。また、同席している保護者との関わり様子も重要な情報となる。ただし、慣れない相手とコミュニケーションをすることに不安を感じている場合は、保護者が日頃子供を観察している点や保護者と子供との関わり様子などを聴取することで把握することも考えられる。

#### 【医療機関からの情報の把握について】

現在の医療機関をはじめ、これまでにかかっていた専門の医療機関がある場合には、その間の診断や検査結果、それに基づく補聴器や人工内耳の調整など、医学的所見を把握することが重要である。また、病院で言語聴覚士による訓練等を受けている場合もあるため、聴力の発達に関する評価結果、聞こえ方を補う様々な工夫、関係機関との連携などの内容も重要な情報となる。

イ 心理学的、教育的側面からの把握

<b>(ア) 発達の状態等に関すること</b>	
<b>把握する事項</b>	<b>留意点等</b>
<b>a 身体の健康と安全</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠、覚醒、食事、排せつ等の生活のリズム</li> <li>・健康状態について</li> </ul>
<b>b 保有する聴覚の活用状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補聴器や人工内耳等の装用習慣</li> <li>・補聴援助機器の活用</li> <li>・音や音声の聴取や理解などについて</li> </ul>
<b>c 基本的な生活習慣の形成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、排せつ、衣服の着脱等の基本的な生活習慣に関する自立の程度</li> </ul>
<b>d 運動能力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行や階段の上り下り、跳躍</li> <li>・粗大運動の状態、微細運動の状態</li> <li>・道具・遊具等の使用状況</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
<b>e 意思の相互伝達能力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉による事柄の理解や表出、コミュニケーションの方法 (音声、読話、キュード・スピーチ、手話、指文字など)</li> <li>・補助手段としての身振り、絵カードなどの必要性</li> <li>・家庭での意思の疎通の状態</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
<b>f 感覚機能の発達</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有する視覚、聴覚等の感覚の活用の仕方</li> <li>・目と手の協応動作</li> <li>・図と地の知覚</li> <li>・空間における上下、前後、左右などの位置関係等の状態</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
<b>g 知能の発達</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものの機能や属性、色・形・大きさを弁別するための概念</li> <li>・空間の概念、時間の概念、言葉の概念、数量の概念</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
<b>h 情緒の安定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多動や自傷などの行動が見られるか。</li> <li>・集中力はどうか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
<b>i 社会性の発達</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや対人関係</li> <li>・これまでの社会生活の経験</li> <li>・事物等への興味や関心などの状態</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
<b>(イ) 本人の障がいの状態等に関すること</b>	
<b>a 障がいの理解</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の障がいに気付き、障がいを受け止めているか。</li> <li>・自分のできないことやできることについての認識をもっているか。</li> <li>・自分の行動について、自分なりの自己評価ができるか。</li> <li>・自分のできないことに関して、先生や友達の援助を適切に求めることができるか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
<b>b 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善するために、工夫し、自分の可能性を生かす能力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいによる学習上又は生活上の困難を克服しようとする意欲をもっているか。</li> <li>・障がいによる学習上又は生活上の困難を改善するために、自分から相手に話の内容を確かめたり、自分の話が相手に伝わったか様子を見たりするなどの態度を身に付け、行動しようとしているか。</li> <li>・補聴援助機器のマイクを話し手である大人に渡したり、写真や絵などを使ったりするなど補助的手段を使おうとしているか。</li> </ul>
<b>c 自立への意欲</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動する際、教師や友達のすることに注目するなど、自分で周囲の状況を把握しようとしているか。</li> <li>・教師や友達のすることなど周囲の状況を手掛かりにして、安全のためのルールや約束を理解し守ることができるか。</li> <li>・できることは、自分でやろうとする意欲があるか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

<p><b>d 対人関係</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実用的なコミュニケーションが可能であるか。</li> <li>・ 協調性があり、友達と仲良くできるか。</li> <li>・ 集団に積極的に参加することができるか。</li> <li>・ 集団生活の中で、一定の役割を果たすことができるか。 等</li> </ul>
<p><b>e 学習意欲や学習に対する取組の姿勢</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の態度（着席行動、傾聴態度）が身に付いているか。</li> <li>・ 学習や課題に対して主体的に取り組む態度が見られるか。</li> <li>・ 読み・書きなどの技能や速度はどうか。 等</li> </ul>
<p><b>(ウ) 諸検査等の実施及び留意点</b></p>	
<p><b>a 個別式検査の種類</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞こえに関する検査</li> <li>・ 言語発達やコミュニケーションなどに関する検査</li> <li>・ 知能検査 ・ 発達検査 等</li> </ul> <p>慣れない相手とのコミュニケーションや音声による指示理解や表出に困難があること、視覚を通して周囲の状況を把握することに配慮して検査を行う必要がある。</p>
<p><b>b 発達検査等について</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検査者が子供の様子を観察し、発達の段階を明らかにする。</li> <li>・ 保護者又は子供の状態を日常的に観察している認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等の担当者に記入してもらう。</li> <li>・ 社会性の発達等については、社会性の発達検査等を利用する。 (発達検査等の結果の評価に当たっては、言語理解及び表出面での遅れがあることにも十分考慮し、子供の発達の全体像を概括的に把握するようとどめておくことが必要である。)</li> </ul>
<p><b>c 検査実施上の工夫等</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音声の聞き取りにくさが結果に影響を及ぼし、低い結果になることが多い。言語性の検査と併せて、例えば絵や動作などで指示したり、動作や指さしなどで回答を求めたりする非言語性の検査を行うことが望ましい。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①補聴システムの活用により音声の聞き取りをしやすくする工夫</li> <li>②音声による指示を文字で伝えるなど代替による指示や伝達の工夫</li> <li>③障がいの状態や程度を考慮した検査時間の延長</li> <li>④検査者による補助（被検者の要請によって、検査を部分的に助ける）というような方法が考えられる。</li> </ol>
<p><b>d 検査結果の評価</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検査で得られた数値を評価結果として使用する場合には、検査の下位項目ごとにその内容を十分に分析し、構造的に見て評価する。</li> </ul>
<p><b>e 行動観察について</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動観察は、子供の行動全般にわたって継続的に行うことが望ましい。</li> </ul>
<p><b>(工) 認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報の把握</b></p>	
<p><b>集団生活に向けた情報成長過程</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊びの中での友達との関わりや興味や関心、社会性の発達など</li> </ul>